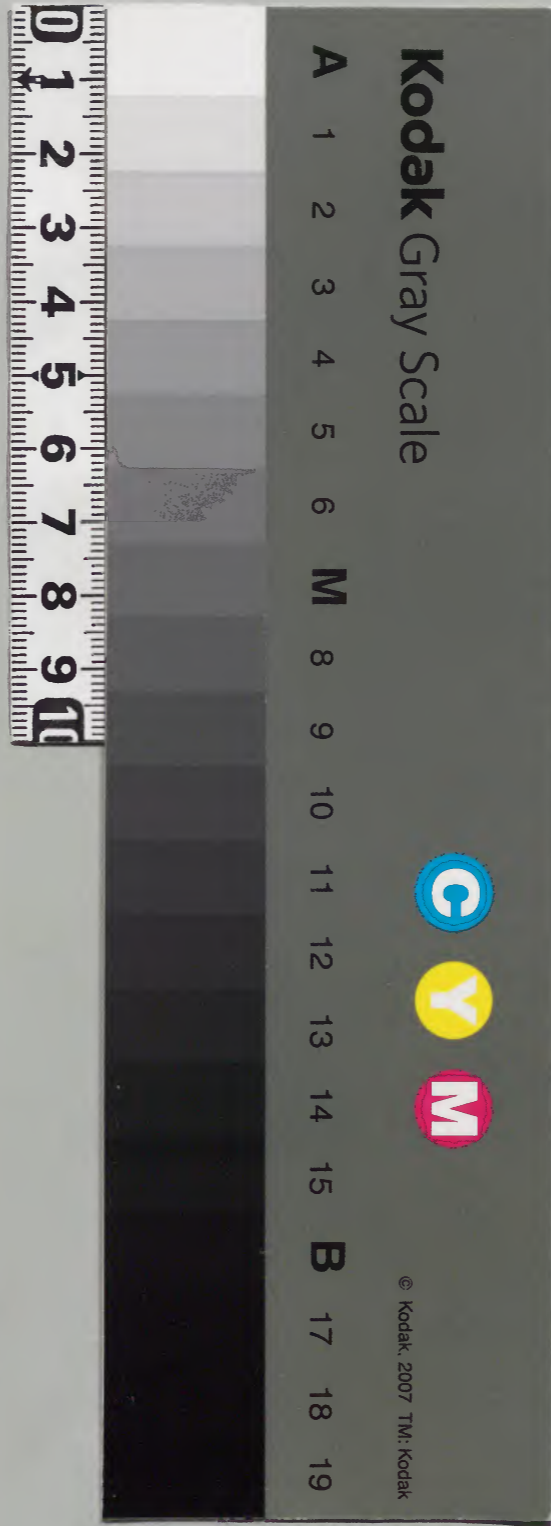


明良帶錄

四

内閣文庫	
番號	和 8644
冊數	7 ( 4 )
函號	152 67

内閣文庫			
一 函	八 冊	六 四 號	和 書
八 架	七 冊	四 號	類



明良帶録卷之四

外編  
御見以下以上格昇途

圖書

圖書

昇途の躑躅の間にて家督跡日被

仰付分て卷末初成格之内所要成役

名を託在

圖書

圖書

跡目、下。被下遣焼火向一ハ  
御役替。上字。脱ス

明治十年騰寫

明良帶録

明良帶録卷之四

外編  
御目見以下以上格昇途

御目見以下以上格昇途

昇途の間に家督跡目被  
仰付分<sup>結</sup>之卷<sup>結</sup>成格之内所要成役

名を託在

直政  
内庫

直政  
内庫

明治十年臘寫

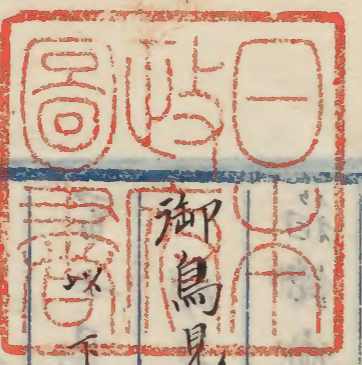
明良帶録



Faint vertical text columns on the right page, mostly illegible due to fading. Some characters are visible, such as '勤' and '品'.

明良帶録卷之四

外篇 東都 山形源豊寛 編纂



之野鷹移出勤より水鳥見手附一昇り夫より  
一之鳥仰白向有て品一以り水徒目付より  
勝年一付願以て役替をり向り水徒目付又  
ハ自役のよの五年十年の勤向りて阿る事阿  
り諸事表向空を仁れ心得筆筆吟味りて作  
成りて水鷹匠方と心を合て勤りく

御天守番

家筋のとの又ハ勤年数久為侍儀美にて此所  
一聚る尤衰場なり又ハ場所の勤風聞坐委仁  
昇る小普清と高力のとのハ出入人可の隔年  
有品 差秋上 御目見俗ハ半席以上と下番  
ハ羽織格なり

富士見御寶藏番

御天守本心の准一知る魚一

箱館御勘定吟味方改役

此場取締場にて筆算諸働可る之の昇る遠

國なりハ右地土カの風儀を察し諸品て未免カの吟味

帳合諸捌取計多し此勘定ハ支配勘定又ハ下

勘定所向願く其場所出役の之の出方中役又

ハ御代官向或ハ奉行所向捌方留役ハ而ト可

り是より昇る百俵以上の人多し此場交代勤

あり

支配勘定

御入用筋國郡の事夫ハ持分所ノ下勘定所向  
取扱事多し格別筆算ハ出精多くハ在り勤切  
者の人又ハ御勘定所出役数年勤たる仁ハ一

通りハ火の安かりも昇る又ハ善請も  
出る御徒目付より来る半席以上とて候上  
の立身とす都て是迄昇る人少し

禁裏御入用取集役

御上代の頃迄は北面の侍の勤場へ今ハ進物  
取次上番より仰付諸事禁裏附奉行の差圖  
り任ま一ノ諸役人の席知るさる處之但互の  
勤り隔年おぼる

御徒目附組頭

御徒目付の上役にて御規式の事一切の事お

關る諸事御目付支配あり御目付の意より取  
まゝるむ此目付向年来の人縁上と爲る又御徒  
目付年数の仁と昇る他場所より昇路あり

御貝役

押太鼓役

是ハ世職篇より出せし名目斗を出さ

御徒組頭

水練第一の心得又ハ地理を明しく組下の善  
悪をよく糺し年来勤向より仁昇る一切外より  
昇るを御譜代より取来し御

切米高を以將一跡式被下置享保六年丑の御  
書付出たる後ハ其身一代小普清入り跡式  
無之

火之番組頭

火之番衆の差引を心得る引下ケルに多し  
老衰御衰美少し昇るも阿り火の番年末初  
との昇る御徒目付組頭御徒目付よりと到る

小普清より出入人と阿り

火之番

奥火の番を奥向と略し刻は日廻り表火の番

ハ中ノ御部屋を廻り念入りと声を起し水  
目付支配あり紅葉山と寺社奉行支配二丸<sup>火</sup>欠  
之番古二丸御留守居候  
小普清方吟味役

小普清方諸品一切積立等を吟味し候減を  
付る左の勅又ハ再勅のとの上水方等郡代組  
付より昇る上場の御作事方より至るも阿り  
多分改方下役より昇る

進物取次番之頭

諸進物の取次上番下番の差引を心得る而上

番下番より繰上聖堂上番より至る小普請

御入人より御目付支配り

御廣敷添番

御廣敷一切の事より御留守居支配り

て多く伊賀とのより昇る何色も家筋より又

子勤次の場合より添番並より昇るも阿の諸向

御獲頭より昇るも阿の小普請より入人も

あり

御所物奉行

是を町奉行諸記物類例取扱心得あり有る仁又

八組同心廻り方ふと都下輕平と穿屋同心ふ

と六ヶ所定廻り向より昇る夫より奉行下役

役方と成る又御小人目付寄場元より昇る

黒鋏頭

古名竹束同心より小寛永年中神田橋外拜領

屋舗を竹束同心屋舗より八組黒鋏頭向より

繰上いより元来御小人目付より昇る五役の内

より昇る小普請より御入人より高の人より

御徒目付

古ハ内小人目付の遠國勤夫より昇進をり之



今ハ諸向より昇る厠場場より小善法世話役  
 より昇る法徒より昇るを操上と云ふ表火火  
 番より昇る其外水入人を惣々筆算武術心得  
 諸働より有る遠國御用所庭向都下御直の隠  
 密等御成先御用御道觸諸檢使立合規規定一  
 切御目付支配の内第一の大役之昇路一段の  
 事之御目付以上と成る厠場より此場を以下  
 第一の役義と云ふ其場の事は鍛練せる人何  
 事の御用より急る之見習を無き本場之人教  
 不足おれを火之番より水産本所引下

の仁の至る場之

御掃除頭

御掃除向より操上より御目付支配出役世話  
 詰所堂上番評定所番等より昇る支配下より  
 之昇る御入人を高のとのおし引下ケ勤りと  
 の所より先ハ御小人目付より年来の勤り御  
 褒美御役替多し

評定所番

評定所番同心より操上一切おし傳奏屋鋪下  
 番向より昇る御勘定所小使向より至る御目

付支配無役御臺所支配無役ハ昇ル昔ハ同  
心ヨリ繰上多シ御勘定所湯吞所又ハ下勘定  
所ハ役人等書役下役の番役ヨリ昇ル小普請  
も御入人ナリ此場御出席之方の會釈姓  
名等を記す  
表御臺所組頭

表奥御膳所三場所の御臺所人繰上マて改役  
より昇ル但高儀ナ出ス小普請世話  
役賄方ヨリも昇ル多くハ御殿立取との御小  
間遣筋の仁多シ六尺ハ御取立との多シ是ト

入り御臺所頭ハ昇ル以下第一の昇進場トんむ  
御臺所番ヨリ昇路極リ居リ今ハ御  
臺所人又ハ小普請外御入人何レの場ヨリ  
と不定以上引下ケの仁多シ当時ハ此場分六ヶ  
敷俎品一切三場所廻リとの調ハ改メの骨打多  
し四ヶ所の内紅葉山火の番二ヶ丸火之番ハ  
准シ勤六ヶ敷ニ  
御駕籠頭

御駕籠のとの組頭ヨリ繰上マり御小人目付  
の内の昇路トん御目付支配ス業役トん御

廣敷向仕本、不詳とより孫上仕丁世話役吹上向

より昇る小普請より御入人本、不詳場本、不詳

駒使買物使

進物取次上番と目録前之古例之通其人宛目役

より上京より勤る御入用筋に於て道中より

年中上り下りより交代より起り御教書局

坊主古天持より今に退役より本、不詳御殿より別

て諸向概合多し是より添番へ昇る上進番

りより持役より

大筒下役組頭

世此職篇に譜あり爰より御殿本、不詳反斗王出也

御膳所奥表御臺所人

三場の俎所一切並取締向近近を司る御小間遣

より儀儀所奥表組頭格夫々御臺所人格より

二十俵二人扶持夫々四十表高表御臺所人へ

昇る奥へも昇る西丸内裏御門又御切手御門

より出る小普請より御入人多し

野鳥奉行

世此職篇に古き爰より名目斗七奉り

御廣鋪御用部屋書役

御廣敷御用部屋書役と五書役及び伊賀との  
みく又伊賀格杯の奥白戸一みく御用多き場  
こ是より侍、拘又添番並り昇る

吹上奉行支配 奉頭役  
御目付役人

右の役々元御庭方御庭作り 枕木作り山  
作り等作物心得の 至る鷹部屋織殿出  
役筋御鷹方一昇る惣々御用多あり

御賄組頭調役吟味役

此三役々組物一切青物乾物奥類豆腐御菓子  
等々至る近吟味役品役を吟味一調役ハ御品

此役仕合一丁組頭一出此場々 其向  
こより 孺止り小普請世話役御臺所人目録  
頭 おとより 昇る表方より も 至る小普請より  
水入人とり 此場 の用多骨折場々

御酒役

御賄方平勤の内別段勤役名別々此場ハ御用  
多一何事も出役なく御入人 御賄方より  
至る別段御役料此役切米以下後吟味役 昇  
る 小普請金集手 御役場と下御賄  
中の見計場と 下役六尺白 より 昇る

御臺所番

此場御臺所御賄の間より勤方善悪を弁せ諸  
事人切の場之俗ふくらやと當とて此詰所  
至下闇く白昼燈火を点て御目付支配あり是  
より表火の番へ昇る小普請又詰向より出入  
人あり御掃除の場よりも昇る

御作事所披官

改方下役又ハ御徒より昇る御作事方所入目  
筋勤並場より今ハ至て六ヶ發筆等第一五丸  
ハ比多し筆等の仁松奉り出入人選奉の科目

ありありは目付支配よりと昇る小普請より

御八人多しは役後役目松を

小間遣頭

御臺所御膳所奥の一角所あり御臺所小間を

書院下御白書院  
院下御白書院

の夜御年男相勤め御豆嚙子御黒書院

一豆と納る印紙有寄知く豆を納る唱言曰天

長地久くく日の下の鬼の豆福ハ肉よりくと唱

ふ小間を三方子拵に豆を盛て持行に此場小

間を筋のとりあり組頭より昇る他より課上

か小普請より出入人あり

御臺所番

此場御臺所御賄の間より勤方善悪を弁せ諸  
事人切の場之俗ふくやと當とて此詰所  
至下闇く白昼燈火を点て御目付支配あり是  
より表火の番へ昇る小普請又詰向より出入  
人あり御掃除の場よりも昇る

御作事所披官

改方下役又ハ御徒より昇る御作事所方出入目  
筋勤並場より今ハ至て六ヶ敷筆等第一五九  
ハ此多し筆等ゆに致奉り出入人選考の科目

ありありは目付支配よりと昇る小普請より

御入人多しは役後役目極多し

小間遣頭

御臺所御膳所奥の一ヶ所あり御臺所小間は  
頭節分の夜御年男相勤め御豆囃子御黒書院

一豆と納る印紙有寄処へ豆を納る唱言曰天

長地久くく日の下の鬼の豆福ハ因よりと唱

ふ小間を三方子拵子豆を盛り持行に此場小

間を筋めとつり組頭より昇る他より深上

か小普請より出入人あり

公人朝夕人

囚獄

諸組與力

世職篇より譜阿の爰より名目迄挙く

佐州廣間番

佐渡奉行舟より取計向多し昔は御金花同心

より至る當時小普請より筆算藝術有る此の

御入人と成る表六尺湯香所小伊賀とのふと

より昇る出役多く人数定り引下勤の人多

し

御徒押

御成の節押役を勤むる御計勤向あり御徒

より昇る是より御灯燈奉行一昇普請

御灯燈奉行

御成のせり御灯燈出し負数普請より定りあり

御徒押より昇り是より火の番おと一昇り此

場席上下役

極木奉行

譜經昇る小普請の部に出る御徒

御徒

御抱場少く水入人亦一水練地理才功者あり  
 との御抱あり御成のせし御道固頭此差圖に  
 任を一一人数少あり名組内より助を取ら御  
 儀所水鷹場水守殿番非常のせし頭差圖に任  
 せ働く一一其中水練頭見分あり  
 日光廣同番  
 日光奉行附より勤向別従あり日光同心八王  
 子同心より昇る銃組同心と昇る小普請より  
 水入人あり

御馬方

以上引下りの仁あり惣馬術心得のよき昇  
 り勤向より昇進を南新仙臺駒飼立より取扱  
 あり

御馬乗

水馬方又准一知る一

御臺極水廣敷伊賀者

昔は水切手水門番同心奥水小人水下男組頭  
 ありより昇る今ハ水入人不足勤向の品にあ  
 り新益篇にあり

御侍



御用向敷、所り申廣末、所用人より申付る筋  
行り添當より昇る此場昇進口ニク是より此筋  
より昇る

山里伊賀

むろ、ハ風等隠密の場なり、御庭第一の役  
之當時ハ不定

明屋舗伊賀者

但此庭方より格上なり、伊賀とのより七昇る  
此場伊賀中よりの上席より鐵砲心得者一  
地方頂戴の者より奥六尺組頭より昇る此場

袴役之伊賀

御賄方

此賄諸奉行役多し、六尺より孫上とあり、諸向  
より出入人々存あり、此場所用多の所ハ小巻  
詰より出入人々あり、此緋ハ御膳所向、此廣末  
向、奥此次日、此膳所とも思ふ、此方ハ孫召上り  
物、此膳所干看、此看並青物、此菓子水菓子、此料  
理、此香物、御豆腐乾物、取集り、諸場所より相  
渡方受取方、此膳所ハ組頭並改方上下役、役印  
取らぬ、其場所より了次第あり、右之品ハ調

役吟味役<sup>取</sup> <sup>之</sup> 相流<sup>之</sup> 所<sup>之</sup> 御臺所<sup>之</sup> 同断奥御  
 膳所日<sup>之</sup> 召上<sup>之</sup> 物<sup>之</sup> 通<sup>之</sup> 諸六尺扱<sup>之</sup> 諸取渡<sup>之</sup>  
 致<sup>之</sup> 夫<sup>之</sup> 御臺所人小間遣仕<sup>之</sup> 諸家<sup>之</sup>  
 御進上物<sup>之</sup> 所<sup>之</sup> 御廣敷積置所<sup>之</sup> 進上方扱  
 取引御賄方<sup>之</sup> 御<sup>之</sup> 豆腐<sup>之</sup> 豆腐<sup>之</sup>  
 役所納屋<sup>之</sup> 別候受取代銀勘定所<sup>之</sup> 献之間  
 表上三四<sup>之</sup> 間<sup>之</sup> 御廣敷<sup>之</sup> 其席<sup>之</sup> 色<sup>之</sup> 御  
 勤方別<sup>之</sup> 日<sup>之</sup> 御料理仕立之<sup>之</sup> 小間遣所<sup>之</sup> 小  
 間遣板前六尺<sup>之</sup> 御看方<sup>之</sup> 改所<sup>之</sup> 上下兩役  
 兼六尺<sup>之</sup> 御通<sup>之</sup> 八百<sup>之</sup> 御立合<sup>之</sup> 御洗<sup>之</sup> 御相

流<sup>之</sup> 御看方<sup>之</sup> 五<sup>之</sup> 御品付<sup>之</sup> 御切<sup>之</sup> 御外  
 日<sup>之</sup> 御<sup>之</sup> 御前日<sup>之</sup> 御目付<sup>之</sup> 御出<sup>之</sup> 御献<sup>之</sup> 御  
 知<sup>之</sup> 御規式<sup>之</sup> 御格別<sup>之</sup> 御一<sup>之</sup> 御場所<sup>之</sup> 御取扱  
 仕立日<sup>之</sup> 三四<sup>之</sup> 御席<sup>之</sup> 御献<sup>之</sup> 御酒<sup>之</sup> 御納<sup>之</sup> 御酒付都  
 御上下<sup>之</sup> 御兩役<sup>之</sup> 御並<sup>之</sup> 御六尺<sup>之</sup> 御通<sup>之</sup> 御諸<sup>之</sup> 御流<sup>之</sup> 御  
 御臺所<sup>之</sup> 御醬油<sup>之</sup> 御香油<sup>之</sup> 御味噌<sup>之</sup> 御摺<sup>之</sup> 御立<sup>之</sup> 御方<sup>之</sup> 御道具<sup>之</sup> 御元<sup>之</sup> 御  
 御小間遣<sup>之</sup> 御小道<sup>之</sup> 御具<sup>之</sup> 御坐<sup>之</sup> 御免<sup>之</sup> 御許<sup>之</sup> 御團<sup>之</sup> 御扇<sup>之</sup> 御油<sup>之</sup> 御未<sup>之</sup> 御買<sup>之</sup> 御物<sup>之</sup> 御方<sup>之</sup> 御其<sup>之</sup> 御外<sup>之</sup>  
 御板前<sup>之</sup> 御炭<sup>之</sup> 御木<sup>之</sup> 御坊<sup>之</sup> 御所<sup>之</sup> 御日<sup>之</sup> 御請<sup>之</sup> 御取<sup>之</sup> 御其<sup>之</sup> 御外<sup>之</sup> 御廣<sup>之</sup>  
 御敷<sup>之</sup> 御一<sup>之</sup> 御客<sup>之</sup> 御前<sup>之</sup> 御本<sup>之</sup> 御二<sup>之</sup> 御向<sup>之</sup> 御料理<sup>之</sup> 御廻<sup>之</sup> 御仕<sup>之</sup> 御立<sup>之</sup> 御方<sup>之</sup> 御廣<sup>之</sup> 御  
 御廻<sup>之</sup> 御上<sup>之</sup> 御間<sup>之</sup> 御下<sup>之</sup> 御仕<sup>之</sup> 御立<sup>之</sup> 御廻<sup>之</sup> 御大<sup>之</sup> 御重<sup>之</sup> 御蓋<sup>之</sup> 御中<sup>之</sup> 御仕<sup>之</sup> 御切<sup>之</sup> 御道<sup>之</sup> 御具

元方より取リ夫より仕方物御賄より請取仕  
立御廣為一廻を又御能御膳上ケ其外格別御  
祝<sup>ハ</sup>は町奉行一建一町料理人引人<sup>ハ</sup>引下入  
御賄被下此御人夫下役改テ申上る<sup>旧</sup>時ハ公  
家衆<sup>ハ</sup>ても傳奏一も系<sup>ハ</sup>を公家衆系向<sup>ハ</sup>能  
大小名一日二漸正月五節句其外御規式ハ不  
定<sup>分</sup>節名<sup>ハ</sup>は表御座<sup>ハ</sup>御坐<sup>ハ</sup>間白黒<sup>ハ</sup>由<sup>ハ</sup>書院  
等一表坊主御目付<sup>ハ</sup>新<sup>リ</sup>小間遣頭御豆糰子  
御規式御作法口傳年々松飾小間遣立<sup>ハ</sup>正廻  
リとソ<sup>ハ</sup>を魚より魚味醬油青物生<sup>ハ</sup>て廻

先奥少<sup>ク</sup>仕立<sup>ル</sup>五節句御例あり節分正廻<sup>リ</sup>  
市彌<sup>ハ</sup>運<sup>ハ</sup>の品、改枝新組の寸打通番御下男  
あり寸打ハ奥の寸を改む<sup>ル</sup>

聖堂番

炊場<sup>ハ</sup>も向心得のとの昇<sup>ハ</sup>引下<sup>ケ</sup>勤多<sup>ク</sup>諸  
向<sup>ハ</sup>より願<sup>ハ</sup>ひ<sup>テ</sup>出る<sup>ハ</sup>各役方より<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>小普請  
より<sup>ハ</sup>水入<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>所<sup>ハ</sup>上<sup>ル</sup>當<sup>ハ</sup>下<sup>ル</sup>當<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>所<sup>ハ</sup>

御中間頭

御小人頭

五役の頭五役の内より豫上あり兩役とも同

小善談世話役

此場殊に外御用多に組中の取扱問合宅見  
 廻り諸願諸届按文を遣去魚妻取扱公迎一向  
 の差圖心得違に組の仁には異見と加小万端  
 組中の取扱所何人と持多くと預る持分  
 の人ハ万事差圖を加小他より御入人取ると  
 り一とも金集手傳より孫上とちり其場の事  
 下つ身守功者ありや此場より出ると御役  
 扱持より下

金集手傳

組内より出ると小善請金取集方心得風聞乳と  
 兼く御老中より御役勤仕並に

演方下役

若年寄支配御目付支配所諸御庭向其外手  
 入等之居付勤のとも他より御役替り下り  
 くとの持領届鋪か御長屋持領所演内  
 は水立所散組無役不動其外懸りの役人

御下男頭

御下男組頭より孫上外出入人

御小人目付

平此小人此中間より仰付〜と此役替と  
不其下より仰付〜と御取立と此目  
付支配より仰付〜と此れ左当時筆等諸働  
何ととの諸向より昇る遠國此用畧麦立合此  
成先両山御法事此門之此規式一切此役義調  
不詳 参廻状と不事所取扱廣き場之上此老  
若下ハ諸向支配一万端取扱相談多不詳 昇進  
此五役の取上〜ハ此徒目付一昇る諸家の内  
密を此に役服黒縁結羽織

御  
職  
書

御目付五役

御小人

御中間

御駕籠之

御掃除

黒鉄の

躑躅之間役上下の二半場之昇る此向昇進

早

目五役之頭

黒鉄之次

御中間之頭

此小人

此掃除頭

御駕籠頭

此場此小人目付の昇進と此御普代場一昇  
此所之小善法より御入人と所

御  
書

御苗守居五役

御天守番

御宝藏番

御裏門番同心

水切手所門同心 進上下番

但奥水小人御苗守居同心と昇達しし此場

昇をむ本乃マに上下番ハ上番又昇り御天守

富士見西下番を役上下一昇り

御臺所三役

御臺所人

小間遣

六尺

此筋役上下一昇りあり御納戸直昇廻り御膳

所とは是子預り知りし此場取立との御

是り多し小普請より御入人あり

奥手附之分

奥六尺組頭

目世話役

同銅壺之間

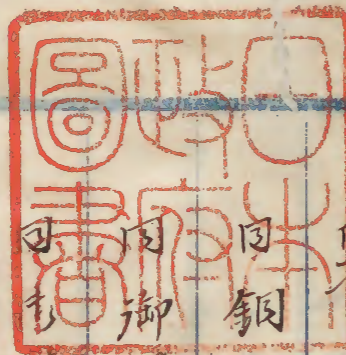
同御雇之との

同御掃除之との

同新組

同打敷敷當

此分昇を早し是より湯吞所へ出ると



明良帶録外篇卷之四

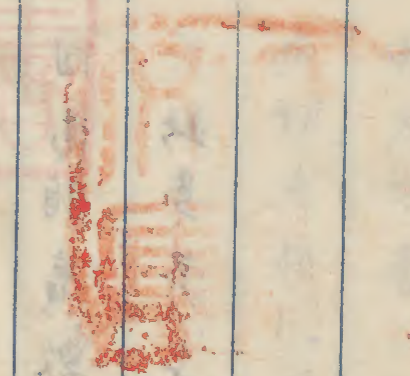
終

勺券旨

御

明治九年十一月廿九日

内  
務  
省



明治九年十一月廿九日  
吉田敬顯

明治九年

十一月廿九日

吉田敬顯

東知新

月  
夕  
日

内規  
務  
省

十一日  
陽

十日  
陽



